

東海テレビ この1年の取り組み 2024



東海テレビ放送

東海テレビ放送 経営理念

感動と勇気を創造し
人々の役に立つ
企業であり続ける



Table of Contents

ごあいさつ

— 1 —

Section 01

東海テレビの

これまでとこれから

— 2 —

Section 02

放送倫理意識向上に関する

取り組み

— 5 —

Section 03

放送・人権・ダイバーシティ

— 7 —

第三者意見 I

— 9 —

Section 04

放送や配信・イベントなどを

通じた地域貢献

— 10 —

Section 05

岩手県をはじめとした

被災地支援

— 14 —

Section 06

視聴者に対する

コミットメント

— 15 —

第三者意見 II

— 16 —

この1年の取り組み

— 18 —

おわりに

— 19 —

ごあいさつ

いつも東海テレビをご覧いただき、まことにありがとうございます。

東海テレビは昨年、開局65周年を迎えました。これもひとえに視聴者の皆さまのご支援の賜物です。改めて心よりお礼申し上げます。

今、社会は混沌の渦中にあります。海外の紛争や円安の急伸がコスト高を招き、企業経営を圧迫しています。放送をめぐる状況も同様で、将来を見据えたテレビの安定経営は喫緊の課題です。

こうした現状を踏まえ、東海テレビでは、息の長い企業として歩み続けるため、新たな活動方針を定めました。私たちはこれを「C.C.C.Action」と名づけました。身の回りの「危機（Crisis）」を察知し、その危機を「変革（Change）」して、「好機（Chance）」にすることで、「感動と勇気を創造し、人々の役に立つ企業であり続けたい」との思いを込めました。

2011年8月4日の「ぴーかんテレビ不適切テロップ問題」は、東海テレビにとってかつてない「危機（Crisis）」でした。当時の出来事を風化させることのないよう、今も放送倫理意識の醸成を目指した取り組みを続けています。特にこの1年は人権について考える機会を積極的に設けました。報道機関として、不適切な情報による誤った報道で、無辜の人をも貶める人権侵害は厳に慎まなければなりません。一方、従業者同士が尊重し合える職場づくりも、良い仕事をする上で重要です。一人ひとりが人権感覚をアップデートして、日々の業務に取り組んでいく所存です。

「変革（Change）」は今の時代のキーワードです。報道部が制作したキャンペーン「かわるPTA」が第61回ギャラクシー賞優秀賞をいただきました。家族スタイルが変わる中で、PTAのあり方を問いかけたものでした。土ドラ「おっさんのパンツがなんだっていいじゃないか！」は、主人公の中年男性が古い価値観を変えようと奮闘する姿を描きました。社内でも、女性従業員が中心となり「女性活躍推進チーム」が活動しています。ピンチをチャンスに変えて成功を収めた女性の経営者や雑誌編集長を招き講演会も開催。多様性を認め合いながら組織を活性化させるというメッセージは、意識変革の貴重な機会となりました。

持続可能な企業であり続けるためには、次世代の活躍が必須です。東海テレビでは新しい番組企画やビジネスプランを募るイベントを実施し、若手からも多くの提案がありました。未来を担う若い世代が自らのアイデアで「好機（Chance）」を掴もうと知恵を出してくれたことはとても嬉しく、そして頼もしく感じています。

SDGsやCSRを意識した活動にも精力的に取り組んでいます。ペットボトルキャップの回収を通じ、世界の子どもたちにポリオワクチンを贈るプロジェクトでは、2021年1月にスタートして以来、2024年6月までに、385人分に当たる約33万1千個が集まりました。

また2015年から当社アナウンサーが続けている中日新聞「くらしの作文」の音読配信は3000回を超えました。

「継続は力なり」です。これからも私たち一人ひとりが高い使命感を持ち、地域メディアとして長く貢献できるよう努めてまいります。引き続き応援のほど、よろしく願いいたします。

東海テレビ放送株式会社
代表取締役社長

小島 浩資



東海テレビのこれまでとこれから

1958年12月に開局した東海テレビは、昨年65周年を迎えました。このページでは、長い間支えていただいた地域の皆様へお届けした番組やイベントを振り返ります。また、次ページ以降では将来に向け、社内で動き始めている活動なども紹介。テレビ業界を取り巻く環境の変化やこれからの時代を見据え、歩み続ける東海テレビの取り組みについてご報告します。

東海テレビ開局65周年記念

THE MAGIC オールジャンル日本一決定戦2023

制作部 嶋崎 悠介

東海地方から新たな賞レースを！

2022年7月に放送された第1弾では、カードマジックを得意とするArsさんが優勝した「THE MAGIC」。彼曰く「番組で頂点に立った後は人生が180°変わった」…それが、第2弾を企画する大きなきっかけとなりました。第2弾は、満を持してゴールデン帯での放送となり、放送尺もほぼ倍の2時間番組に。漫才で言うM-1のような、全マジシャンが憧れる大会になっていったほしい…そんな思いで、スタッフ&出演者&出場者一丸でこの企画に取り組みました。一番のポイントはイチー祭で行った公開予選会。東海地方で鎬を削るマジシャンたちが真剣勝負で大いにイベントを盛り上げてくれました。MCの霜降り明星が「テレビの賞レースで60点台なんて見たことない」と評した“辛口採点”も大きな反響を呼び、元々は東海ローカル放送のみだったところから最終的には系列27局全局で放送できました。

昨今のテレビであまり見る事のなくなった“マジック番組”を、これからも名古屋発で育んでいきたいと思っています。

東海テレビ開局65周年記念
THE MAGIC
オールジャンル
日本一決定戦
2023年11月28日(火) 放送



イチー祭2023で行われた公開予選会



豪華ゲスト&審査員の方々

優勝したJONIOさんの
コインマジック

東海テレビ開局65周年企画

名古屋平成中村座 同朋高校公演

事業部 鈴木 衛

高校の体育館で開催！

「江戸時代の芝居小屋を再現し、若い人にも歌舞伎を観てもらいたい」という今は亡き十八世中村勘三郎さんの思いから生まれた平成中村座。今年3月、東海テレビ開局65周年企画として、同朋高校体育館で、2週間にわたる公演を実施しました。体育館を歌舞伎小屋に改装するには、膨大に整理することが発生します。まずは、同朋高校の皆さんの協力なしでは進みません。高校内で、先生方を中心に「名古屋平成中村座を支える会」という組織ができ、何回も会議を重ねました。本番が近づくと高校生を中心に、保護者、先生も参加し300人を超えるボランティアが集まり、会場設営から本番のお客様対応まで手伝っていただきました。そして、1・2年生の在校生全員が中村勘九郎、七之助が演じる本物の歌舞伎を鑑賞しました。同朋高校の皆さんには大変なお騒がせをしましたが、普段、歌舞伎を観る機会のない高校生たちが江戸情緒溢れる古典芸能を体験したことは、大きな意味があったと思います。今後もこの地域に文化貢献できる催事を実施できればと思います。

東海テレビ開局65周年企画
十八世中村勘三郎十三回忌追善
名古屋平成中村座 同朋高校公演
2024年3月6日(水)～18日(月)
同朋高等学校(名古屋市中村区)



公演当日の様子

新規オープン！

今年4月1日にお取り寄せウェブストア「東桜（ひがしさくら）デパート」がオープンしました。東桜は私たち「東海テレビ」の本社がある地名です。このサイトでは、番組で紹介した地元生産者のスイーツ、グルメ、雑貨などの逸品を中心に販売しています。そして単なる商品紹介に留まらず、商品のバックストーリーを紹介し、また番組映像も使って、生産者の想いやこだわりを伝えるようにしています。このサイトを通じて、少しでも地元を盛り上げたいと考えています。新規事業は立上げ時は勿論、その後の運営も初めてのことばかりで戸惑うこともあります。しかし、生産者の方々から商品開発の苦労話やこだわりを聞くたびに前向きになれ、またお客様に喜んでいただく力が湧いてきます。商品はスタート時の約200点からどんどん増えています。今後はエリアも東海地方から徐々に全国へ広げて行き、まだ知られていない魅力ある商品を皆さんにお届けしていきます。大切な人への贈り物や、自分への御褒美に、ぜひ東桜デパートをご利用ください。

※「東桜デパート」ホームページは[こちら](#)からご覧いただけます。



商談成立



商品撮影、原稿作成もメンバーの役割

ビジネスプランコンテスト

新たな挑戦

昨年7月に新設された経営戦略局は、経営基盤を強化するため広告収入以外の新たな収益源を模索しています。その一環として、今年4月に「ビジネスプランコンテスト」を初めて開催しました。全従業員から寄せられた54のアイデアの中から、10のプランがファイナルコンテストに進みました。特に注目されたのは、「番組と連動した冷食出前サービス」、「番組セットを活用した配信による会社説明会サービス」、「有名人と巡るペット同伴のバスツアー」の3つのアイデアで、現在事業化に向けて検証中です。コンテストは今後も定期的に関催する予定で、将来的には外部の技術や知見を取り入れたオープンイノベーション形式のコンテストも計画しています。東海テレビの経営理念は「感動と勇気を創造し、人々の役に立つ企業であり続ける」です。このような新たな取り組みを通じて、視聴者の生活をより豊かにする価値を提供し続けていきます。



審査員とファイナリストの面々

「女性活躍推進プロジェクト」始動

「女性活躍推進チーム」メンバー一同

働きやすい会社を目指して一步一步 前へ

昨年4月、社内に新設された「女性活躍推進プロジェクト」。プロジェクトを推進する「女性活躍推進チーム」のメンバーは現在、異なる部署の女性社員6人によって構成されています。

「女性が働きやすい会社はすべての従業員が働きやすい会社である」という考えのもと、女性のみならず一人ひとりが「これまで以上に活躍し輝くことができる職場」を目指して活動しています。目標は壮大ですが、一步一步、少しずつでも前進できればと、地道にできることから実行した1年でした。

働く環境について現状把握のために実施した全社アンケートの結果から見えてきた課題を「メンバーからの提言」として昨年8月、役員・局長で構成される「女性活躍推進委員会」に提出しました。今後もこの提言に基づき、職場環境の改善策を模索していきたいと思っています。

昨年11月には愛知県が「県民の日学校ホリデー」を新設したことを受け、社員間の相互理解を深めることを主目的として「こども職場参観企画・キッズデー」を実施。従業員の子どもたち18名が会社を訪問し職場体験をしました。

また昨年8月と今年6月には職場環境の改善を積極的に推進している会社の女性取締役をお招きした社内講演会を実施、当社で生かせる施策のヒントを得ています。

今後も東海テレビが働きやすい職場になるために活動を続けていきます。



「こども職場参観企画 東海テレビ キッズデー」でのひとコマ



社内講演会の様子

SDGsアクションレポート創刊！



CSR推進部 勅使河原 由佳子

地域のミライを咲かせるために

2023年度に東海テレビが実施したCSR・SDGs活動を、『ミライ、咲かそ。』のスローガンのもと一冊のレポートにまとめました。このレポートでは、番組や配信、イベントに加え、企業としての取り組み、福祉文化事業団の活動、「東海テレビひまわり賞」や「東海テレビ文化賞」など、長年にわたる社会貢献活動についても詳述しています。社内のCSR推進チームメンバーをはじめとした従業員が、それぞれの活動にける想いも紹介しており、多くの方に東海テレビの取り組みを知ってもらいたいと考え、ホームページで公開しました。

社会の変化に伴い、テレビ局の役割も変わりつつありますが、地域の皆様との絆を大切に、地域の未来に笑顔の花を咲かせたいという想いは開局以来変わりません。これからも従業員一人ひとりのスモールアクションが地域全体の幸福度向上に繋がることを信じ、地域に笑顔の花を咲かせる活動を続けていきます。それが「東海テレビのサステナビリティ」に繋がると信じています。

※SDGsアクションレポート2023は[こちら](#)からご覧いただけます。



SDGsレポート表紙



『イッちゃん文庫』絵本読み聞かせ活動に参加する
浦口史帆アナウンサーと筆者（右）



クリスマスイベントの様子
(プライムツリー赤池・愛知県日進市)

放送倫理意識向上に関する取り組み

びーかん問題以来、東海テレビでは放送倫理を考える取り組みを全社的・継続的に行っています。放送倫理にもとることが起きていないかチェックするとともに、昨今話題になっているテーマで研修会を開くなど、意識向上に努めてまいりました。

8月4日 放送倫理を考える全社集会

コンプライアンス推進部 伊藤 雅章

若手社員が登壇

「放送倫理を考える全社集会」は、私たち一人ひとりが【放送倫理】について今一度考え直すとともに、当時の問題を風化させないようにすることを目的に開催しています。

今回、集会の冒頭で当時問題となった映像と原因を検証した番組の抜粋VTRを放映。小島社長はVTRを受け、「放送が持つ影響力の大きさとそこに伴う大きな責任を改めて自覚してほしい」とメッセージを伝えました。

続いて各部局からの報告では「びーかんテレビ問題」が起きた翌年、2012年4月以降に入社した男女5名ずつ、合計10名の若手社員が登壇。「テレビ局で働いている従業員として、日ごろの業務で気を付けていることやヒヤリ・ハット事例で学んだこと」を発表しました。

放送事故のVTRを見た参加者からは「今、生放送の番組を担当しているが、VTRを初めて見て、テロップや映像の確認を何重にもしていきたい」「VTRを見るのは正直辛かったが、薄らいでいく記憶の中、意味があった」。また若手社員の発表については「様々な部署のヒヤリ・ハット事例や対応策を知ることが出来て、今後の意識改革につながった」などの感想が寄せられました。建設は死闘、崩壊は一瞬です。視聴者の方々からの信頼を得るのに近道はありません。「放送倫理を考える全社集会」が、日々の業務を丁寧に、コツコツと積み上げることの大切さを確認できる場に今後もしていければと思います。



放送倫理を考える全社集会の様子

2023年度第1回放送人研修会

番組審議室 堀田 優

昨年11月2日、毎年実施している「放送人研修会」をオンライン形式で開催しました。「具体例で考える番組制作の法律問題」をテーマに、講師にフジテレビ顧問弁護士の中川達也弁護士をお迎えしました。

今回は事前アンケートで興味のあるテーマや具体的な質問を募集。その結果、テーマは番組出演者の保護、ステルスマーケティング問題、道路や車での撮影、ネット上の情報利用、生成AIの活用など多岐にわたりました。

生成AIの活用については、秘密情報や個人情報の入力に注意することや、回答の正確性が担保されていないことなどを指摘していただき、タイムリーな注意喚起になりました。



第1回
放送人研修会
の様子

放送基準改正説明会

番組審議室 堀田 優

今年4月1日から日本民間放送連盟の放送基準が改正されたことに伴い、東海テレビの放送基準も改正されました。番組出演者保護に関する内容が追加された今改正の施行に先立ち、3月に全従業員・スタッフを対象にした説明会を対面とオンラインで開催し、改正のポイントや留意点を周知しました。

条文に盛り込まれた番組出演者はもちろんのこと、原作者やスタッフなど番組に関わるすべての人の精神的な健康状態に配慮することを浸透させ、SNSなどによる誹謗中傷に対する意識の向上と適切な対応を図っていききたいと思います。



放送基準
改正説明会
の様子

コンプライアンス責任者会議

東海テレビでは各部の所属長を「コンプライアンス責任者」に任命しており、所属部署内でのコンプライアンス意識、放送倫理意識の普及と向上を目的とした取り組みを推進する責任を担っています。年4回、3カ月ごとに開催している「コンプライアンス責任者会議」では、上記責任者にグループ会社の担当者も加え、法令順守や放送倫理、情報セキュリティなどに関わる事項について、話し合いの場を設けています。各部で発生したトラブルやヒヤリ・ハット事例とその対応の共有のほか、BPO事案などについても時間を割いて議論を深めています。全従業員が放送に携わる「放送人」として、コンプライアンスを意識しながら業務にあたるようこの会議を運用しています。



コンプライアンス責任者会議の様子

コンプライアンス委員会

「コンプライアンス委員会」は、役員・局長・グループ会社役員などをメンバーとし、半年に1回開催しています。社内のコンプライアンス及び情報セキュリティに関する案件について、コンプライアンス責任者会議からの報告を受けるとともに、役員、局長らが情報共有及び対応策を協議し、社及びグループ会社としての方針を決定する場としています。委員会には顧問弁護士も参加しており、この1年では「改正景品表示法」や「取引先との価格交渉について」などが議題となりました。会社幹部が率先して学び、職制を通じ注意喚起することで、コンプライアンスを意識できる企業を目指しています。



コンプライアンス委員会の様子

第三者機関 オンブズ東海

びーかん問題を契機に、2012年に発足した第三者機関「オンブズ東海」は、法律・消費者経済・マスコミの専門家に委員を委嘱、第三者的な立場から東海テレビの放送・イベントなどを監視いただいています。また、年4回、3カ月ごとに開催している「オンブズ東海委員会」では、弊社の活動について、それぞれ専門の立場から意見をいただき、頂戴した意見は適宜社内にフィードバック、「転ばぬ先の杖」としてしています。委員会の概要は、東海テレビのホームページで公表していますので、ぜひご覧ください。

[オンブズ東海委員会HP](#)

オンブズ東海委員のみなさん
2024年7月1日現在

橋本 修三 委員長 弁護士
東 珠実 委員 梶山女学園大学現代マネジメント学部教授
白田 信行 委員 (株)中日新聞社常務取締役

そのほかの主な取り組み

《2023年》

- 5月31日 下請法説明会（～6月19日）
- 8月29日 個人情報保護・
情報セキュリティに
関する内部監査（～1月17日）
- 12月21日 業務リスク調査・修正
（～5月15日）

《2024年》

- 4月3日 新入社員コンプライアンス研修
（～4月4日）
- 4月4日 東海テレビプロダクション
新入社員コンプライアンス研修

東海テレビは昨年11月、容疑者の顔写真を取り違えて放送するという、重大な人権侵害を起きました。この問題を契機として、改めて「人権」の重みを考える1年となりました。一方、民放連は昨年12月「人権に関する基本姿勢」を決定。その中で「すべての人々の人権が尊重される社会の実現を目指す」と謳っています。ここでは当社が放送した人権と多様性に焦点を当てた番組などもご紹介します。

報道の“力”と責任

報道部 片本 武志

昨年11月24日、私たちは、容疑者として使用した顔写真が、事件とは関係のない方のものであった、という問題を起しました。その方に多大なご迷惑・ご心労をおかけし、また、報道機関としての信頼も大きく損なう結果となりました。写真の確認作業が不確実であったこと、チェック体制が不十分だったことなどが原因でした。

再発防止策として、顔写真使用についてのルールの厳格化、チェック体制の強化などを行うと同時に、取材活動の指針としている「報道ハンドブック」を改訂。今回の問題を風化させないよう、研修会も継続的に行うこととしています。

私たちが携わる報道には、社会を変える“力”があるとともに、人の人生に大きな影響を及ぼす“力”も持っています。「放送と人権」。この2つが持つ重さを今一度胸に刻み、今後の取材活動とニュース報道に臨んでまいります。



報道ハンドブック

2023年度 第2回放送人研修会

コンプライアンス推進部 伊藤雅章

テーマは「放送とSNSと人権」

私たち放送人にとって、SNSは今や欠かせない情報源の一つとなっています。一方でSNS情報の取り上げ方を誤ったときに、人権侵害や誹謗中傷を引き起こすリスクが高まります。そこで今年3月21日に実施した「放送人研修会」はテーマを「放送とSNSと人権」とし、講師にはネット上で突然‘殺人犯’扱いされ、長年にわたり言われなき誹謗中傷を受けた経験を持つ、タレントのスマイリーキクチさんをお招きしました。

スマイリーさんは「情報に惑わされない心構え」として『発信者の過去の投稿を必ず確認する』『会議で出たゴールにとられると現場で起きたリアルを見落としてしまう』ことを心に留めて、『不用意に‘いいね’や‘リポスト’で拡散させない』ことを訴えました。

受講者からは「(SNSの)被害者側からの視点の話がとても有意義だった」「テレビ局に勤める人間として、裏付けや根拠を元に従事しないと、他の人生を壊す可能性があることを自覚して働きたい」「時間をかけても正しい情報にたどり着き、それを丁寧に伝えることが今のテレビに求められていると感じた」との感想が寄せられました。

SNSをうまく活用しながらも、現場で私たちが実際に目にした、心で感じたリアルをより大切にしていけるように、今後の業務にあたっていきたいと思います。



講師のスマイリーキクチ氏



研修会の様子

土ドラ「おっさんのパンツがなんだっていいじゃないか！」 東京制作部 松本 圭右

メディアの在り方はなんだってよくはない！

この番組はLINEマンガで人気の練馬ジムさんの原作を実写化した連続ドラマです。LGBTQや個人の趣味嗜好など、多様性をどう受け容れるか、自分の常識をどうアップデートしていくかを、昭和生まれの中年男性・沖田誠の目線で描きました。LGBTQやオタクといった「カテゴリー」ではなく、「一個人」として相手と向き合うことで、“その人が大事にしているものを、ないがしろにはしてはいけない”というメッセージを、涙あり、笑いありのやさしい物語として制作しました。

「アウトティング」など、とてもデリケートで大事なテーマも扱ったため、過去に傷ついた経験のある人が、この番組を見てさらに傷つくことがないように、公式Xなどで事前に各話のテーマや描き方を公表し、注意を促すことも意識しました。また、車椅子ユーザーの登場人物は、実生活でも車いすを使っている俳優さんに演じてもらうなど、制作現場としても多様性の未来に向けた挑戦ができました。メディアという責任ある仕事に携わる者としても価値のある出来事だと思っています。こうした取り組みは一過性のものにせず、継続することが何より大切だと考えています。引き続き、真摯なドラマ制作を続けていければと思います。

土ドラ
おっさんのパンツが
なんだっていいじゃないか！
2024年1月6日(土)～3月16日(土) 放送
(全11話)



沖田翔（城桧吏）と誠（原田泰造）

幸せの証明～乾杯！障害者野球のキャプテン～

スポーツ部 吉野 健

我々は“勝者”

昨年9月、バンテリンドームナゴヤで「第5回世界身体障害者野球大会」が行われました。日本代表の主将を務めたのが、日本身体障害者野球連盟に加盟する地元チーム・名古屋ビクトリー所属の松元剛さん。名古屋鉄道で整備士として働く松元さんは、26歳の時に作業中に感電し、左腕、右手の人差し指、中指を切断しました。そんな辛い経験を乗り越え、前向きに生きる彼に密着したドキュメンタリーを制作しました。

番組の中でも取り上げた、彼とチームメイトたちの飲み会での会話を紹介します。

「障害の害の字は、なぜ障がいと平仮名で表記されるの？」

「自分は、害を隠しているみたいで嫌だ」

「むしろ害は変えずに、障の字を変えた方がいいよね！」

「そう、我々は害に勝つ者という意味で障を勝利の勝に変え“勝者”の方がいいよね！」

これは、たわいもない飲み会の席での会話ですが、初めて耳にした当事者の意見はとても新鮮で、自分自身改めていろいろ考えるきっかけになりました。

世界大会の選手宣誓で、松元主将は言いました。

「我々、障害者でも野球で人々を感動させることが出来ることを証明したい！」と。

その言葉通り、私自身も障害者野球の選手たちが、懸命にプレーする姿に勇気をもらいました。グラウンドの彼らはまさに“勝者”でした。

幸せの証明
～乾杯！障害者野球の
キャプテン～
2023年12月28日(木) 放送



最愛のご家族と



世界大会でグラウンド入りする松元さん

時に立ち止まる勇気を

オンブズ東海委員 白田 信行

2011年8月4日の「ぴーかん問題」は、私にとっても忘れられない事件だ。中日新聞の当日の編集責任者として、このニュースに直面し、迷った末に社会面準トップという結構大きな扱いを指示した。傷つけられた被災地の心情を思い、被災地が抱える問題を矮小化させないために、必要な扱いと判断したからだ。

その後、東海テレビがこの問題を重視し、さまざまな取り組みを続けていることはよく聞いていたが、縁あってオンブズ東海に参加してから詳細な活動ぶりを知った。会社全体の「敗戦」として、「ぴーかん問題」を考え続け、語り継いできたことに感服した。他の報道機関なら同様の失敗が起きた時、東海テレビのように長い時間、真っ向から受け止めていくだろうか、とも考えた。それくらい会社の意思の強さや報道機関としての志を感じる取り組みである。

しかし、これほどテレビや報道のありようを真摯に考えている東海テレビで、昨年秋にまた重大ミスが起きてしまった。逮捕された容疑者の顔写真を取り違えたことである。現場の記者たちは、できるだけ早く詳しい情報を視聴者に届け、報道の役割を果たそうとしたわけで、ぴーかん問題とは性質をやや異にする。とはいえ、事件に無関係の实在の人物を容疑者として報じたのだから、何とも深刻な人権侵害である。

事後の報告によれば、記者たちはSNSで入手した写真を、3人から確認を取る「3人ルール」に沿って本人の確認ができた判断した。確認の手順をきちんと踏んでいたとの説明だが、その後指摘された問題点では、容疑者本人だと確信が持てない写真を使っただけの確認作業であり、適用したはずの「3人ルール」にも誤解があるなど、端的に言えば、確認方法が形骸化していた。さらに、チェックすべきデスクも時間に追われていて、客観的な立場で冷静に判断することができなくなっていたとの指摘もあった。これは重い話だ。時間に追われるのは報道機関、とりわけテレビの宿命ではある。だが、「本当にこの写真でいいのか」と問い詰め、記者の返答に逡巡や疑問が見られたら、出稿を見送る勇気を持ちたいと思う。難しい選択だが、一刻も早く伝えるだけが報道機関の任務ではなく、人権を守ることはそれ以上に大切な使命である。

この取り違えでも、事後の対応は誠実だった。重大な失敗があっても、影響を最小限にとどめ、全社で共有して、継承していく。「ぴーかん問題」に向き合い続けた東海テレビなら、今度の苦い失態も、よりよい報道の糧にしていくだろうと確信している。



白田 信行（うすだのぶゆき）氏

1980年中日新聞社入社。
パリ支局長、社会部長、編集局長などを経て、常務取締役編集担当

放送や配信・イベントなどを通じた地域貢献

東海テレビは、様々なジャンルの番組を通じて地域の皆様に情報をお届けしています。放送以外でも、イベントや社会貢献活動、動画・情報配信サービスなど、そのすべてに「地域の皆様の暮らしを少しでも良い方向へ変えるきっかけになりたい」、そんな気持ちが込められています。様々な活動での地域貢献活動を紹介します。

能登半島地震

報道部 後藤 慎介

バトンを繋ぐための取材

2024年1月1日午後4時すぎ。「緊急地震速報！！今すぐ逃げて！！」

鬼気迫るアナウンサーの声とともに流れた、石川県珠洲市の速報映像。

発生から6時間後、8人のクルーと共に石川県へ入るも、道路のひび割れや陥没が多く、ホテルから片道5時間以上かけて移動する毎日。スマホの電波が通じずスタッフとの連絡もままならないため、最低限の取材も苦勞する1週間でした。

そんな中、心がけたのは「次に繋げられる取材」をクルー全員で行うことです。

現場ではリポートをしながら長時間カメラを回し続け、配慮の上で被災者へ積極的に声をかけました。その時に必要がない素材も、数日後、数ヶ月後、どこかでいきる時がきってくる。警察担当で事件現場の取材をしていた時の教訓でした。

私達が伺った取材先は、地元の石川テレビが引き継ぎ取材を担当、改めて初動の大切さを感じています。

この甚大な被害を忘れないためにも、映像だけではなく、私の生の声を後輩たちにも伝えていきたいと思っています。



倒壊した住宅の前でリポートする筆者



陥没した道路に取り残された車



焼け焦げた輪島朝市通り

「スイッチ！」リニューアル

生活情報部 服部 篤幸

イチバン近くに！

2013年4月に始まった「スイッチ！」はこの春、12年目を迎えました。コロナ禍も一段落し日常を取り戻した今だからこそ、地元密着の情報番組として、視聴者の皆さんにとって一番身近な存在でありたいと、キャッチフレーズを「イチバン近くに！」と掲げました。その思いを“ハイタッチ”で体現したPRや新コーナーを放送しています。

まずは番組の名物・お散歩コーナーとして「DAI★さんぽ」がスタート！東海地方ビギナーのDAIGOさんが東海地方の駅を起点に歩き、街のワクワク（魅力）を探します。RDT（リアルな・DAIGO流・楽しみ方）をお伝えしています。

「マツケンさんぽ」からリニューアルした「健さんの福袋」は、愛知県豊橋市出身の松平健さんが東海地方の老舗や名所を巡りお買い物！歴史を知り、人を知り、時代を越えて愛される逸品と出会い、世界でひとつだけの“オトナの福袋”をつくり、視聴者の皆さんに幸せをお届けしています。

また、番組10周年の企画で始めた「スイッチ！ファーム」では、家庭菜園から始め、実際に畑を借りて野菜を育て、皆さんにお届けしました。2年目となる春からは、東海地方の皆さんと一緒に野菜や米を育てています。皆さんのイチバン近くにある「スイッチ！」であり続けたいです。

スイッチ！

毎週月～金曜 9:50～11:14 放送



「健さんの福袋」高橋知幸アナウンサーと



「DAI★さんぽ」四日市市にて



“ハイタッチ”で思いを表現

第3回東海テレビプレゼン大会

総合編成部 向井 良太

テレビマンの熱量、高く！

毎朝「スイッチ！」が生放送されているAスタジオは、その日、いつもと少し違う熱気に包まれていました。

今年2月に開かれた「第3回プレゼン大会」。全従業員から番組企画を募集し投票で選ばれた企画が番組化の権利を勝ち取ります。今回は33の応募があり、書類選考を経て10企画が本選に進みました。プレゼンターは、新入社員から入社36年目まで、部署も営業部門や制作現場など様々です。コントをしたり楽器を吹いたりコスプレをしたりと、それぞれのやり方で番組化への思いを熱量高く伝えました。セオリー無視の大胆な若い発想、ベテランの衰えない情熱に刺激を受けた社員も多かったのではないのでしょうか。

結果、最も多くの票を集めたのは、入社1年目と2年目の若手コンビが考えた「謎解きバラエティ番組 Bスタジオからの失踪」。ネットの掲示板と連動する斬新な企画で、現在番組化に向けて準備を進めています。

「面白い番組を視聴者に届けたい」という熱意こそがテレビ局の原点。番組制作の環境は年々厳しくなっていますが、ピンチをチャンスに変えるような番組を発信していきたいと思います。



プレゼン大会に参加した面々



最多得票を獲得した若手コンビ

ニュースONE キャンペーン「かわるPTA」

報道部 岩佐 雄人

ギャラクシー賞・民放連賞を受賞

PTAが大変らしいー。我が子の小学校のPTA活動にわずかながら関わったことをきっかけに、役員決めの理不尽をはじめとする「PTA問題」について取材を始めました。地元の役員ママたちを皮切りに、「テレビ見たよ！」と二十数年ぶりに連絡をくれた同級生、お酒を酌み交わした会長たちまで、直接話を聞いた役員や保護者は100人近く。これまで何十年も“そういうもの”として続いてきたPTAのあり方に一石を投じたいと、子育てや仕事に忙しいなか多くの親たちが取材に協力してくれました。

変わり始めたPTAの姿を伝えるキャンペーンは1年半近くの長期にわたり、30本以上の特集や関連ニュースを放送しました。なかでも名古屋市、岐阜市、津市の小中学校約500のPTAにアンケートで活動の課題を聞き、保護者から集めた会費で多くの学校備品を購入する実態について問題提起した調査報道は全国的な注目を集め、名古屋では新たなガイドラインの策定や、学校予算の増額のきっかけにもなりました。これからも地域に根差し、身近だけど切実な社会問題を追いつけていきたいと思います。

キャンペーン「かわるPTA」 「ニュースONE」

(月～金曜 15:43～19:00) 内ほかにて放送



「ニュース ONE」より

イッチー祭での取り組み

営業推進部 武田 壮永

気持ちよくイベントを楽しんでもらうために

抜けるような青空に、日中は汗ばむほどの陽気。

昨年10月に開催した『ふるさとイッチー祭2023』は、好天に恵まれたこともあり、2日間で合わせて8万5000人に来場いただきました。

今回の『イッチー祭』のテーマは“グルメ”。企画は東海テレビの番組を味覚でも楽しみ、ファンになってもらうことです。土ドラ『あたりのキッチン』に登場したメンチカツ、『ドラHOT+』からは中日ドラゴンズの選手寮・昇竜館のカレー、そして『ぐっさん家』で取り上げたポン菓子などには長い行列。『スイッチ!』の企画で育てた野菜を使ったカレーもご好評いただき、その目的は達成できたと思います。

番組だけでなく、いくつものスポンサーが飲食物を提供するブースを展開する中、運営にあたって注力したのがごみの処分。せっかくグルメを楽しんでも、ごみ箱が使用後の紙皿やカップで溢れかえっているのは興醒めです。スタッフを増員して回収頻度を上げたほか、そのごみを持ち込む集積所を前年の倍にして、ごみ箱に捨てやすい環境を保ちました。

些細なことですが、来場者への配慮と視聴者フレンドリーな番組作りとは通底するものがあります。

これからも地域に愛される東海テレビであり続けられるよう、工夫と実践を重ねたいと考えています。

開局65周年記念 ふるさとイッチー祭2023 東海テレビグルメパーク

2023年10月28日（土）、29日（日）
久屋大通公園（名古屋市中区）



多くの方に来場いただきました



「ぐっさん家」で紹介したぼん菓子を求める行列が

東海クラシックから世界へ！

東海クラシック事務局 太田 貴久

ジュニアゴルファー育成プロジェクト

毎年秋に開催する男女のプロゴルフツアー「東海クラシック」。迫力あるドライバーショット、緊張感あふれる中で見せる繊細かつ卓越した技で多くのギャラリーを魅了しています。地域の皆様に支えられ、全国でも有数のギャラリー数を誇る大会に成長しました。

男女ともに様々なジュニア企画を行い、ゴルフの普及・ジュニアゴルファーの育成に力を入れています。小さな子供でも楽しめるスナッグゴルフの体験と大会、プロのプレーを間近で観戦し、放送センターやプレスルームなど普段は見ることができない大会運営のウラ側を体験する「ジュニア観戦ツアー」などのイベントでゴルフに触れてもらいます。小中学生のゴルフ経験者には「ジュニアレッスン会」で出場プロがマンツーマン指導。そして「ラウンドレッスン会」では出場プロがジュニアとラウンドしながらレッスンをを行います。さらに夏には「ジュニア予選会」を開催し、優勝者にトーナメントの出場権を付与しています。

東海クラシックではゴルフ未経験者にはゴルフに触れる場を、ジュニアゴルファーにはレッスン会で意識と技術の向上、そしてトーナメントへの出場機会を提供することで一連の流れを作り、世界に羽ばたくゴルファーの誕生とゴルフ業界の活性化を目指しています。

第54回 住友生命Vitalityレディス 東海クラシック

2023年9月15日（金）～17日（日）
新南愛知カントリークラブ美浜コース
（愛知県美浜町）

第53回 バンテリン東海クラシック

2023年9月28日（木）～10月1日（日）
三好カントリー倶楽部 西コース
（愛知県みよし市）



ジュニアレッスン会の様子



スナッグゴルフ大会の様子

地域に役立つメディアとして…

在名放送局5局が共同で運営している配信プラットフォーム「Locipo（ロキポ）」は、今年3月でサービス開始5年目を迎えました。

これまでは各局が制作したコンテンツを無料でお楽しみいただてきましたが、今後のテーマは「地域に密着した毎日利用できる情報ポータル」になること。「地域インフラとしての機能性・拡張性の強化」を目標の1つに掲げ、地域の皆様に有用な情報を届けることができるメディアとなるべく進化を続けています。その一環として、行政の情報との連携をLocipoに参加している在名5局で模索してきました。

名古屋市には、若年層からお年寄りまで幅広い年代に市政情報を伝達すべく、Locipoと各局のデータ放送に市政情報を掲載する取り組みを提案。今年4月から各局一斉に情報掲載をスタートしています。

この取り組みを通じて、災害時などに編成される緊急特番の放送が終了した後も、地域が必要な情報を引き続き届けることができます。

ゆくゆくはこの取り組みを東海三県地域全体に広げていき、皆様に有用情報を届けていきたいと考えています。



Locipoに掲載された名古屋市の市政情報の例

東海テレビ福祉文化事業団

微力ながら困っている方、がんばっている方の力になりたい！

「社会福祉法人 東海テレビ福祉文化事業団」は東海地方の障がい者やお年寄り、子どもたちの福祉向上を目的に1979年に設立され、今年で45年を迎えました。その活動は障がい者団体・施設が行う事業や難病団体への助成をはじめ、子ども食堂への支援金の寄託、老人ホームで暮らすお年寄りを大相撲名古屋場所へ招待する事業まで多岐にわたります。年間を通じて「愛の鈴しあわせキャンペーン」として募金活動を実施しているほか、毎年開催している「愛の鈴チャリティ 東海美術作家展」では、その純益のすべてを地域の社会福祉向上に役立てていただいております。

また、この地方の障がい者の福祉に携わっている社会福祉団体に乗用車「愛の鈴号」を寄贈。身体機能のハンディを克服し社会的に自立・活躍している東海三県在住の方々に「東海テレビひまわり賞」で顕彰しています。

このほか、東日本大震災、トルコ・シリア大地震、能登半島地震などへも義援金を寄託、災害援護事業にも力を入れております。

これからも微力ながら困っている方、がんばっている方の力となれるよう努めてまいります。



「ひまわり賞」顕彰の様子



愛の鈴号

岩手県をはじめとした被災地支援

東日本大震災から13年が経った今なお、険しい復興への道のりを歩み続ける被災地。そして、今年元日に起こった「能登半島地震」の厳しい状況を知るほど、被災地支援の必要性を改めて感じます。東海テレビは放送や取材を通じて「伝えること」はもちろん、イベントなどを通じ、引き続き被災地復興のお手伝いをしていきたいと考えています。

触れた言葉に思うこと

社長室 田中 達也

12年目の岩手訪問

「あの時は皆、助け合いの精神がすごかった。私たちもそういう原点に立ち返ることが重要だと改めて思った」

昨年夏、小島社長が1年の取り組みを報告するために岩手県を訪問した際に返ってきた言葉です。

あの時とは、未曾有の大災害を東北地方にもたらした2011年。この年は東海テレビが不適切テロップ問題を起こした年でもあります。あれから今年で13年。

岩手県訪問の際、小島社長からは、従業員の3人に1人が、東日本大震災、不適切テロップ問題後に入社した世代になったこと、こうした世代に当時の模様を知ってもらうため、「放送倫理を考える全社集会」では、当時制作された問題の検証VTRを上映したことなどを報告。全社集会は毎年開催され、入社年次や部署が異なる全従業員が、「不適切テロップ問題」について考える大切な場になっていることを説明しました。

13年の時を経た今、全従業員が過ちを繰り返さないとの思いを一つにするために何をすべきか。

「助け合いの精神」「原点に立ち返る」といった岩手訪問で触れた言葉に、その答えのヒントを得たように感じました。



岩手県 菊池哲副知事らと



JA岩手県中央会 照井仁常務理事、JA全農いわて 林伸彦副本部長らと

この1年の主な被災地支援の取り組み

番組での取り上げ

ニュースONE

- 《2023年》 7月18日（火） 「いわて食の商談会 in 名古屋」開催（名古屋東急ホテル）
- 9月11日（月） 大村愛知県知事が福島県産の水産物の安全性をPR
- 《2024年》 1月15日（月） 岩手県の観光キャラバン隊が来社
- 3月 8日（金） 「大谷ジャーナル：東日本大震災からの13年能登につなぐ」能登地震からの復興のヒントを探るべく福島・女川町の現状と復興の足取りを番組コメンテーターの大谷昭宏氏が取材。
- 3月18日（月） 「ミライノニュース：岐阜の町工場と福島」岐阜の繊維メーカー浅野撚糸が2023年、福島県双葉町に新工場を建設。浅野撚糸社長の思い、工場で働く人々の声などを通じ、双葉町の今を紹介。
- 3月23日（土） 名古屋市の友好都市・陸前高田市との交流イベントを紹介。

スイッチ！（生中継）

- 《2023年》 8月30日（水） 岩手県の観光と物産展（名鉄百貨店本店）
- 11月 2日（木） 第13回大東北展（ジェイアール名古屋タカシマヤ）
- 《2024年》 1月24日（水） 宮城県の観光と物産展（名鉄百貨店本店）

岩手米の社内販売と社員食堂での消費

昨年10月から11月に岩手産米「銀河のしずく」新米の社内販売を実施し、5kg入り3000円を206袋販売。また、2023年度中、社内食堂で岩手産米「ひとめぼれ」を計3355kg消費しました。

ふるさとイッチー祭

昨年10月28日（土）・29日（日）開催の「ふるさとイッチー祭2023」の復興支援コーナーとして、岩手、宮城、福島、熊本各県のブースを設け、特産品の販売と観光PRを実施。

視聴者に対するコミットメント

東海テレビには、視聴者の皆様をはじめ、社外から様々な意見が寄せられます。皆様からの貴重な声を番組作りに生かし、引き続き、より良質で有益な番組をお届けし、皆様のご期待に応えていきます。

東海テレビ放送番組審議会

番組審議会は、放送法に基づいてすべての放送局に設置が義務付けられている第三者機関です。東海テレビの番組審議会は8月を除く毎月1回開かれ、番組や放送全般に関するご意見をいただいています。委員は10名で、東海地方の経済、学術、法曹、文化など様々な分野で活躍する方々に委嘱しています。

2023年度の審議会では、ドキュメンタリー、バラエティー、ドラマなどを議題として委員から意見をいただき、当社の担当者が質問などにお答えしました。また、番組で問題を起こした際には、厳しい意見や指摘をいただいて、その後の対応に反映しました。

今後も様々な番組を取り上げて委員から多様な意見を伺い、番組作りに生かすことで、より一層信頼されるテレビ局となるよう努めてまいります。



番組審議会の様子

東海テレビ放送 番組審議会 委員の皆さん

2024年7月1日現在 (50音順)

石川 仁志	委員	(株)名鉄百貨店代表取締役社長
岡田 さや加	委員	柳ヶ瀬を楽しいまちにする(株)代表取締役社長
桂 文我	委員	嘶家
河西 秀哉	委員	名古屋大学准教授
後藤 ひとみ	委員長	愛知教育大学名誉教授
武田 健太郎	委員	東海旅客鉄道(株)代表取締役副社長
竹松 千華	委員	(有)IDF代表取締役
田畑 豊	委員	(株)中日新聞社取締役
福谷 朋子	副委員長	弁護士
水谷 仁	委員	中部電力(株)代表取締役副社長執行役員

視聴者対応窓口

ニュース、情報、バラエティー、ドラマ、スポーツなど様々な番組に対する視聴者の皆様のご意見は、「視聴者対応窓口」に電話、メール、文書などでいただいています。2023年度に寄せられたメッセージは約14200件で、番組内容の問い合わせや意見、番組の放送要望などが届きました。

寄せられたご意見やメッセージは、番組の制作担当者・編成担当者などに伝え、より良い番組作りに役立ててまいります。

社外モニター

東海テレビの社外モニターは、毎年度上期と下期それぞれ10名の視聴者の方々をお願いしています。月に4～5本の自社制作番組をご覧いただき、2023年度は51番組についてご意見をいただきました。住所、年齢、性別、職業など様々なプロフィールの方からの意見は、番組作りの課題や番組編成のヒントなどを頂戴する貴重な機会となっています。

視聴者対応番組「メッセージ1」

視聴者の皆様からいただいた問い合わせ・ご意見・ご要望などは、毎月第4日曜日午前5時15分から放送している「メッセージ1」で一部を紹介しています。番組では、番組審議会の議事概要、CSR活動、BPO事例なども報告し、東海テレビと視聴者の皆様との双方向のコミュニケーションを図る役割を担っています。



「メッセージ1」

改めて問われる放送の「信頼」

上智大学 音好宏

この春、民放各局は、その放送基準の改訂作業を行った。今回の改訂では、特に「番組出演者の保護」に関する項目が書き加えられた。民放局の放送基準に関しては、民放連・放送基準審議会において、定期的にその内容の精査が行われ、おおむね5年に1度、改訂が行われてきた。民放各局は、民放連の放送基準を準用する形で、放送基準の改定を行ってきた。今年春の改訂作業は、2023年春に行われた大改訂に続くものであったが、改訂作業が2年続けて行われた背景には、放送倫理や人権に対する世間の関心・注目度が高まっていることが上げられよう。

特に、2023年春にBBCのドキュメンタリー「プレデター〜 Jポップの捕食者」が放映されたことにより、旧ジャニーズ事務所創業者による性加害問題を、国内の新聞、テレビも大きく取り上げることになるが、本件に対するそれまでの沈黙もあって、民放キー各局は、検証番組を放送するなど、その姿勢が改めて問われることになった。

加えて、放送事業者の人権に対する配慮にも注目が集まった。この春の放送基準の改定も、そのような社会の注目を受けたものと言えるだろう。民放局のなかには、人権デュー・デリジェンスの実施を掲げるところも増えてきている。

他方において、SNSの普及や動画配信サービスの伸張などにより、放送事業を取り巻く経営環境は厳しさを増しているとの指摘は多い。そのようななかであって、ローカル民放局のなかには、編成考査業務や番組審議会の運営など、コンプライアンス業務の負担を囁く声も少なくないという。ただ、ネット系メディアの拡張や、CTV（コネクテッドTV）の伸張のなかで、既存の放送事業の強みは、何といても社会からの信頼性であることはいうまでもない。

民放連では、この6月に「民間放送の価値を最大限に高め、社会に伝える施策」について取りまとめているが、その最初に掲げているのが「信頼される放送の堅持」である。例えば、番組審議会について「放送の自主・自律的な取り組みを進める上で欠くことのできない組織」とし、その意義や役割について改めて確認をする活動を進めてきたことが報告されている。言わば放送局を取り巻く経営環境が厳しさを増す時だからこそ、ネット系メディアとは異なり、放送法で定められている放送の自主・自律の仕組みを、放送局の維持・発展のために戦略的・積極的に活用していくべきではないか。ネット系メディアの伸張のなかで、エコチェンバーやフィルターバブルが問題とされる昨今だからこそ、「信頼される放送の堅持」を、負担や義務としてではなく、放送局が視聴者と深くつながる相互理解の場としていくことが問われているのだ。

第三者意見 II

東海テレビは、2011年の不適切テロップ事件以来、コンプライアンス強化に向け組織的に取り組み、放送倫理研修や全社集会を継続的に開催してきた。また、外部有識者による検証組織「オンブズ東海」を設置。第三者の目によるコンプライアンス推進の常設機関として、東海テレビに対する内外の声に耳を傾け、東海テレビの放送倫理、コンプライアンスのあり方について、議論を重ねてきた。このような現場の生の声を大切にした組織的な取り組みは、全国の民放局のなかでも、特筆すべきものといえる。

このような活動の積み重ねこそが、放送局の放送倫理の維持、向上につながると考える。先に見たように、放送事業者を取り巻くメディア環境は大きく変化し、放送事業者は、そのプレゼンスが改めて問われていると言える。メディア環境が大きく変化するいまだからこそ、東海テレビには、これまで続けてきた放送倫理の向上、コンプライアンス強化に向けた努力を再確認しつつ、心を新たに、その維持・向上に邁進していただきたい。



音好宏（おとよしひろ）氏

上智大学文学部新聞学科教授。1961年札幌生まれ。民放連研究所勤務。上智大学新聞学科助教授、コロンビア大学客員研究員などを経て、2007年より現職。衆議院総務調査室客員調査員、放送大学評議委員、NPO法人放送批評懇談会理事長などを兼務。専門は、メディア論、情報社会論。著書に『放送メディアの現代的展開』（ニューメディア）、編著に『地域発ドキュメンタリーが社会を変える』（ナカニシヤ出版）などがある。

この1年の取り組み

2023年

7月	放送倫理を考える月間・放送倫理を考える日全社アンケート
8月4日（金）	放送倫理を考える全社集会 「東海テレビこの1年の取り組み2023」発行・HPに公表 社外アドバイザー報告会
8月24日（木）	第40回コンプライアンス責任者会議
8月31日（木）	小島浩資社長 岩手県等訪問
9月11日（月）	オンブズ東海第47回委員会
9月21日（木）	2023年日本民間放送連盟賞 【特別表彰 放送と公共性】優秀 キャンペーン「かわるPTA」 【CM部門 テレビCM】優秀 公共キャンペーン・スポット「かわるPTA」 「優しいAI～愛知県 持続可能な農業への現在地～」
9月22日（金）	第25回コンプライアンス委員会
10月26日（木）	再免許交付
10月28日（土） ～29日（日）	ふるさとイッチー祭2023
11月2日（木）	2023年度第1回放送人研修会 「具体例で考える番組制作の法律問題」
11月24日（金）	第41回コンプライアンス責任者会議
12月11日（月）	オンブズ東海第48回委員会

2024年

2月22日（木）	第42回コンプライアンス責任者会議
3月11日（月）	オンブズ東海第49回委員会
3月11日（月） ～15日（金）	「2024年改正放送基準・放送基準解説文」説明会
3月21日（木）	2023年度第2回放送人研修会 「放送とSNSと人権」
3月27日（水）	第26回コンプライアンス委員会
4月2日（火） ～3日（水）	新入社員コンプライアンス研修
4月3日（水）	東海テレビプロダクション 新入社員コンプライアンス研修
5月24日（金）	第43回コンプライアンス責任者会議
5月31日（金）	第61回ギャラクシー賞 【報道活動部門】優秀賞 キャンペーン「かわるPTA」
6月10日（月）	オンブズ東海第50回委員会

おわりに

今年も本報告書をご覧いただきありがとうございました。

今回の表紙は、東海テレビのキャラクター・イッチーが船長の「東海テレビ号」が
大海原の中、航海を進めているイメージで作成しました。

描かれている帆船には「東海テレビ」という会社の姿を重ねています。

「東海テレビ号」が続けているこの航海には終わりはありません。

しかし、テレビ業界を取り巻く厳しい環境下、強い向かい風や、時には前も見えない大しけに
遭遇することもあります。それでも、私たちは、知恵と柔軟な判断でうまく帆を操り、
風に抗いながら前に進んでいければと思っています。

私たち東海テレビはこれからも放送や配信、イベントなどを通じ、
地域の皆様の生活をより豊かにするお手伝いができるよう努めてまいります。
引き続き、よろしくお願いいたします。

東海テレビ
この1年の取り組み2024

制作・編集

東海テレビ放送 コンプライアンス推進局 コンプライアンス推進部
〒461-8501 愛知県名古屋市東区東桜一丁目14番27号
Tel. 052-951-2511 (代表) <https://www.tokai-tv.com>

**表紙・裏表紙
デザイン**

制作局美術部 水野 亮
発行年月 2024年8月
※文中の所属・肩書については原稿作成時点のものとなっています。



東海テレビ放送